

「川本来の生態系を取り戻すワーキング勉強会」

2月16日（月）に、「川本来の生態系を取り戻すワーキング勉強会」を開催し、約50名が参加しました。

第1回目となる今回は、水生生物研究家の石川先生と横倉山自然の森博物館の谷地森先生をお招きし、「仁淀川の底生生物調査のデータ分析結果概要」と「四国のオオサンショウウオ～川本来の生態系との関係～」の2つの演題でご講演いただきました。

石川先生の講演では、川虫の種類とそれぞれの特徴や川虫が多く生息する環境の特徴などについて説明が行われた後、1985～1986年に実施された仁淀川の底生生物調査結果と現在の状況を比較し、データから読み取れる河床の変化について考察が示されました。

谷地森先生の講演では、オオサンショウウオの生態について詳しく解説されました。また、谷地森先生から「"本来の川"とは、いつの時代のどのような環境を指すのか。」という問いかけに、参加者も深く考察する姿が印象的でした。

勉強会終了後に実施したアンケートでは、「もっと詳しく聞きたかった」「清流保全と生物多様性を考える上で有意義な内容だった」などの感想が寄せられ、次回開催への期待も感じられました。

